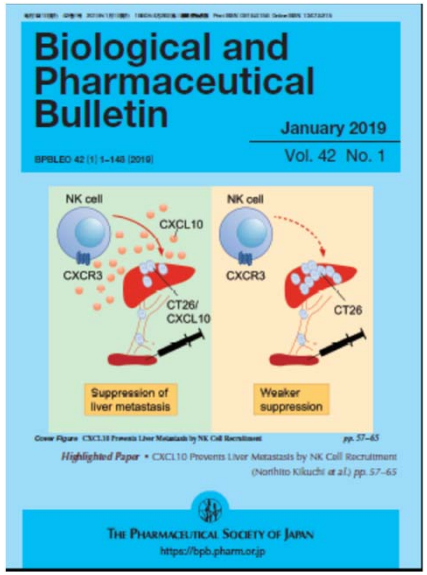
日本薬学会学術誌（BPB）の
質向上に向けた取組
～ジャーナルコンサルティング報告～



公益社団法人　日本薬学会

BPB編集長　大槻　純男

公益社団法人　日本薬学会の概要

日本薬学会について

日本薬学会は、「くすり」に関係する研究者や技術者が、学術上の情報交換を行い、学術文化の発展を目的とする学術団体です。新しい医薬品の開発・製造、安全性の確認、臨床への供給など薬を使ってさまざまな病気を克服するという目的のもと、1.7万人に及ぶ会員の情報源として機能しています。

日本薬学会は、さらに新しい未来を創造しながら、生命現象の解明と医薬品の適正使用をめざして、会員とともに人類の健康と福祉のため、着実 な発展を続けています。

日本薬学会の歴史

1880年（明治13年）日本薬学会創立
1881年（明治14年）「薬学雑誌」創刊
1899年（明治32年）社団法人認可
1953年（昭和28年）「Pharmaceutical Bulletin」創刊
1965年（昭和40年）会誌「ファルマシア」創刊
2002年（平成14年）部会制の発足
2011年（平成23年）公益社団法人認可

会誌「ファルマシア」を毎月発行

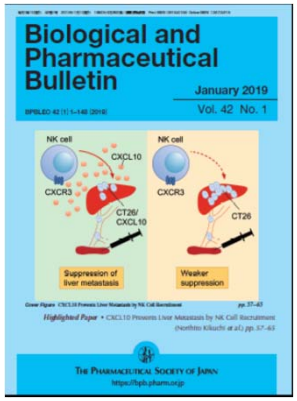
会員数　正会員　16,825 (一般会員　14,192、学生会員 2,633)　　2019年1月31日現在
その他　262
合計　17,087

学術誌の発行

毎月1回1日（年12回）発行

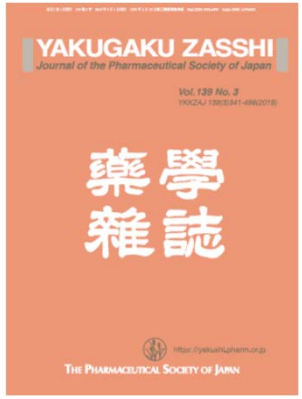
Chemical and Pharmaceutical Bulletin (CPB)

1953年創刊 （2017年 IF：1.258）



Biological and Pharmaceutical Bulletin (BPB)

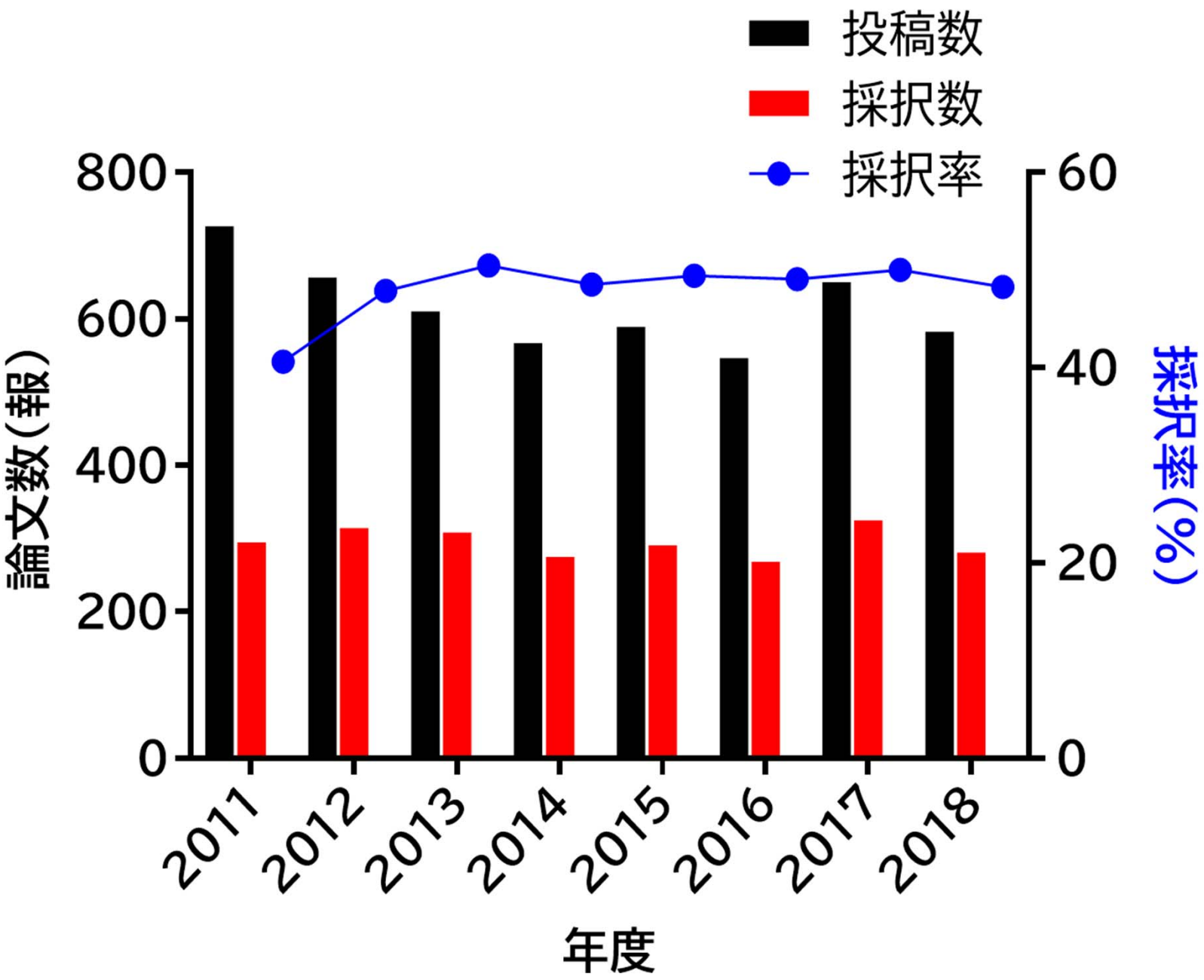
1978年創刊 （2017年 IF：1.694）



YAKUGAKU ZASSHI

1881年創刊 （2017年 IF：0.293）

ＢＰＢ発行事業における現状：受付数と採択数

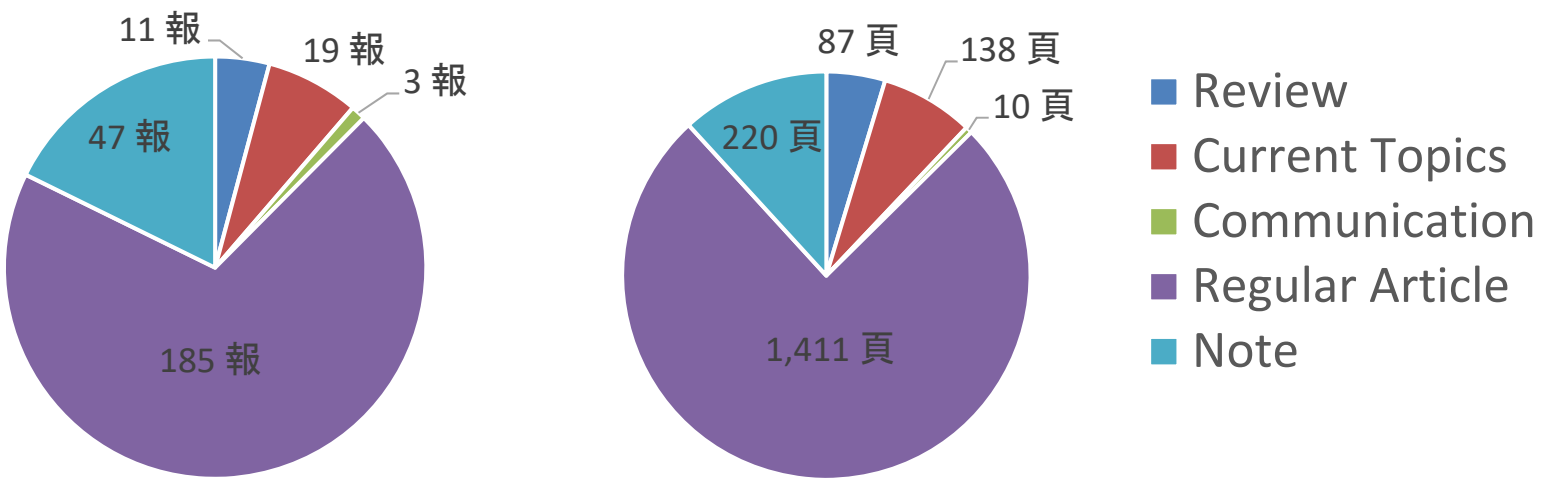


ＢＰＢ発行事業における現状：IF推移と掲載論文種別

過去10年間のインパクトファクター（IF）推移

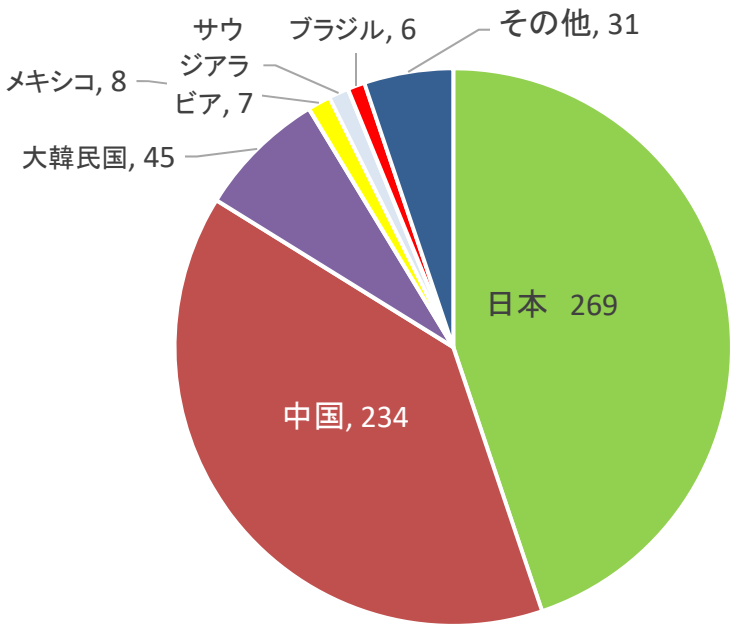
年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
Impact Factor	1.765	1.810	1.811	1.657	1.849	1.778	1.828	1.574	1.683	1.694

第41巻（2018年）掲載論文種別



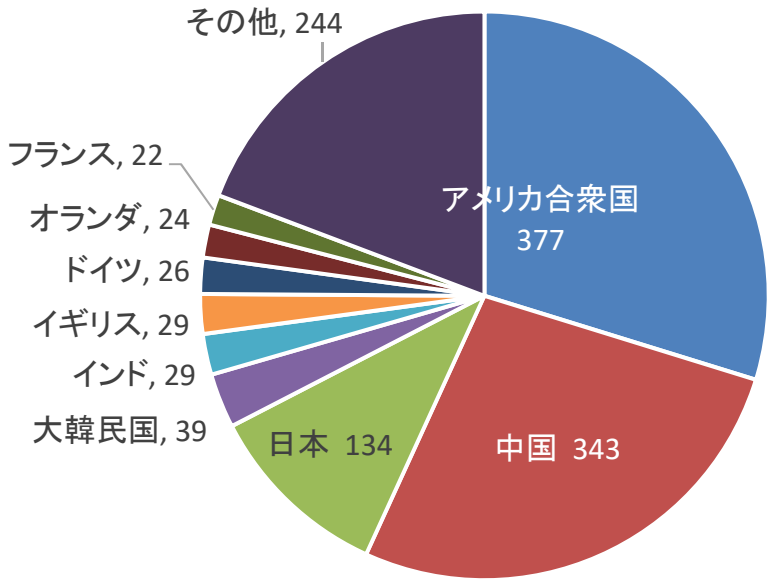
ＢＰＢ発行事業における現状：国別受付数とアクセス数

2018年国別投稿受付数（報）



総受付数=600報

2018年国別アクセス数（千アクセス）



総アクセス数=1,267（千アクセス）

J-STAGEアクセス統計　国別レポート
（書誌事項、全文PDF、全文HTML含む）

ＢＰＢ発行事業における現状

- 投稿の会員制限なし
- 投稿手数料：3,000円(会員は掲載料から減額）/件
- 掲載料:5,000円/page
- 通常掲載料：30,000円(Note)～40,000円(Regular)/論文
  (国内外、会員、非会員の掲載料同額）
- カラーページ：印刷60,000円/page(online のみ4,000円/Fig.)
- 学術誌編集委員はCPB、BPB、YAKUGAKU ZASSHI共通で
  専門部門ごとに部門長をおいて論文を審査している
- 学術誌編集委員会部門長会議（部門長会議）を年3回開催し編集方針の決定や諸問題の対応を検討している
- IFは10年間で1.6～1.9と安定している

コンサルティングの目的

昨年度：オープンアクセス化

Free access

Open access

（2018年10月発刊）

BPBをopen access journalにすることによる投稿者、会員のメリットは？

コンサルティングの目的

昨年度：オープンアクセス化

↓

今年度：ジャーナル価値の上昇

6月28日　プレキックオフミーティング
（Web会議）

今年度コンサルティングの目的の設定：
「英文学術誌としてのジャーナル価値の向上」

INLEXIO:　キックオフミーティングまでに
ジャーナルアセスメントを作成

8月16日　キックオフミーティング
（対面）

ジャーナル価値の向上とは？
どの数値を上昇させるのか？

BPBの現状の課題

- IFが伸び悩んでいる
- 欧米からの投稿がほとんどない

対応案

- Instructions to Authors(ITA)改訂
- 学術誌編集委員会の国際化
- ジャーナル広報の拡充

Assessment of ITA elements

Section	Assessment			
AIMS & SCOPE			Key	
JOURNAL POLICIES				Absent
Authorship				Could be improved
Animal/human experimentation				OK
Unoriginal material				Not relevant
Image integrity				
Reproducing copyrighted material				
Availability of data and materials				
Conflicts of interest				
Confidentiality				
Editorial and peer review process				
Referee suggestions				
Editorial decisions				
Appeals				
Errata and retractions				
OPEN ACCESS				
Article Processing Charge				
License to Publish				
(Creative Commons) licenses				
HOW TO SUBMIT				
ARTICLE TYPE SPECIFICATIONS				
Type 1				
Type 2				
Type 3				
Type 4				
Type 5				
ARTICLE PREPARATION				
English standard				
Format				
Title				
Authors				
Affiliations				
Key Words				
Running Title				
Footnotes				
Abbreviations				
Graphical Abstract				
Abstract				
Introduction				
Materials and Methods				
Results				
Discussion				
Acknowledgments				
References				
Tables				
Figures				
Supplementary material				
Other - additional info for review				
Other - subject-specific items				
Publication charges				
Copyright				
POST-ACCEPTANCE PROCESS				
Other - if ITA refers to website, include links				

すべてのelementsを緑にする。
海外から投稿しやすい(不安にならない)ITAにする。

2018年

9月　3日　　INLEXIOからITA revise案が到着

9月21日　　薬学会部門長会議において上記案を元にした改訂を了承

10月17日　　部門長の希望を入れた修正案をINLEXIOに返送

大槻、薬学会事務局、INLEXIO間で修正のやりとりを行う

11月　8日　　部門長会議（E-Mail会議）で新ITAの内容を承認

2019年

1月17日　　薬学会理事会で新ITAを承認

2月　4日　　部門長会議で新ITA（微修正）を承認

4月　1日　　新ITA発効予定

主なITA変更点

1. レイアウトの国際標準化
2. General and Editorial Policiesの追加
3. Unoriginal Materialの追加
4. Editorial and Peer Review Processの追加
5. Referee Suggestions, Appealsの追加
6. Errata and Retractionsの追加
7. Copyright and re-use of journal materialの追加
8. Post-Acceptance Processの追加

より具体的に、よりわかりやすく

海外の研究者を編集委員に

編集委員：reviewerを選び、コメントに基づいて採否を判断する

現状

部門長：8名

編集委員:88名

（国内83名、海外アドバイザー5名）

海外の研究者を編集委員に加える意図

- ✓ 欧米から投稿しやすくする
- ✓ 海外編集委員に投稿してもらう
- ✓ 海外編集委員に宣伝してもらう

2018年

9月21日　部門長会議においてコンサルタント内容を説明し、各部門に1名の海外編集委員を加えることを了承

2019年

2月4日　部門長会議で海外編集委員の候補について議論し、依頼をする海外研究者を決定

4月1日　新（2019年度）学術誌編集委員会の開始

来年度就任予定海外編集委員：9名

コンサルタントをうけてよかったこと

BPBは薬学会会員の研究者と薬学会事務局で運営されているため、出版社とは異なる。また、non-native speakerである。

- ジャーナルマネージメントの専門家による客観的な評価がわかり、改善方法についてアドバイスをいただけたこと。
- ITAについて具体的な改訂案を提案していただき、英語も含めてアドバイスをいただけたこと。

謝辞

- 国立研究開発法人　科学技術振興機構
  知識基盤情報部　研究成果情報グループ
- INLEXIO社
  Dr. Dugald McGlashan, Dr. Caroline Hadley